

## 教育委員会 平成 26 年度 8 月臨時会の概要

- 日時 平成 26 年 8 月 6 日 (水)  
13 時 30 分開会 16 時 20 分開会
- 場所 鎌倉市役所 講堂
- 出席委員 山田委員長、下平委員、朝比奈委員、齋藤委員、安良岡教育長
- 傍聴者 34 人
- 本日審議を行った案件
  - 1 協議事項 平成 27 年度使用小学校教科用図書の選定について
  - 2 議案第 19 号 平成 27 年度使用小学校教科用図書の採択について

### 山田委員長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより 8 月臨時会を開会する。

本日の会議録署名委員を齋藤委員にお願いする。

本日は、平成27年度使用教科用図書の採択関連のご審議をいただくが、小学校使用教科用図書の採択については、これまでと同様、まず協議事項としてご協議いただき、その結果を踏まえ、議案第19号でご審議いただくこととする。

### 1 協議事項 平成27年度使用小学校教科用図書の選定について

### 山田委員長

日程の 1、協議事項「平成27年度使用小学校教科用図書の選定について」を議題とする。

### 教育指導課長

7 月 22 日に鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から教育委員会に報告された「平成 27 年度使用教科用図書調査研究報告書」を参考に、平成 27 年度使用小学校教科用図書の選定についてご協議をしていただくことになるが、それに先立って、この報告書作成までの経緯について説明する。

本年 4 月の教育委員会で、「平成 27 年度使用教科用図書の採択方針」を議決していただいた。その採択方針に基づき、平成 27 年度使用中学校及び特別支援学級教科用図書については、すでに採択いただいた。

鎌倉市立小学校の平成 27 年度使用教科用図書については、同じくその採択方針に基づき、鎌倉市教科用図書採択検討委員会を 5 月に設置した。第 1 回検討委員会を 5 月 9 日に開催し、

教育委員会が採択をするにあたって参考となる資料を作成することを、教育長から検討委員会に依頼した。

検討委員会では、参考となる資料を作成するにあたり、各発行者から送付された教科用図書見本の調査・研究を専門的事項に関する資料を作成するため、各種目に調査員を置き、依頼内容に基づき、調査員に教科書の調査研究を指示した。調査員は、各種目3名から7名で、市立小学校教員により11種目39名で構成した。

第1回検討委員会を受けて、5月23日に第1回調査委員会を開催し、調査活動に入った。調査委員会は、6月18日と6月26日に開催し、調査資料を作成した。その調査資料を基に、7月15日に開催した第2回の検討委員会で、報告書作成のため、内容の検討に入るとともに、総合評価について協議した。

総合評価については三段階とし、星の数を一つから三つで表記することとした。種目ごとに協議・検討し、星の数が多いほど鎌倉の児童によりふさわしいと検討委員会で判断した。

7月22日に第3回検討委員会を開催し、総合評価と評価の内容を引き続き協議し、報告書としてまとめた。

続いて、報告書の説明をする。「平成27年度使用教科用図書調査研究報告書」は、鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から7月22日の報告を受け、教育委員の皆様へお届けしたものである。

左上に種目が示されている。表については、左の項目から「発行者番号」「発行者略称」「書名」となっており、文部科学省から送付された小学校用教科書目録に示されたものである。「総合評価」については、星の数で表している。星三つは、鎌倉の児童によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書。星二つは、鎌倉の児童にふさわしいと検討委員会で判断した教科書となっている。「総合評価の内容」については、検討委員会で協議した内容を、教科用図書ごとにその特徴を記述した。

この形式で、11種目全ての教科書の報告がされている。

平成27年度使用小学校教科用図書の選定については、1種目ずつご協議をいただき、鎌倉の児童にとって最もふさわしい物を選定いただくようお願いする。

なお、調査内容の詳細に関するご質問については、調査委員会を担当した指導主事からお答えすることをご許可いただきたいと思いますと考えている。

(質問・意見)

## 下平委員

前回の小学校の教科書採択のときには、学習指導要領の改訂があったと聞いているが、その後、何か学習指導要領に関する変更などがなかったか。

## 教育指導課長

現行の学習指導要領については、平成20年に改訂をされた。その後、内容についての変更は特にない。

### 朝比奈委員

私は前回も関わらせていただいたが、その後、一通りお使いいただいて、現場の学校の先生方から使いにくかったとか、そういうお声はないか。

### 教育指導課長

現在の小学校の教科書については、平成23年度から使用をしている。教科書は主たる教材ということで教科書を使って授業を行っている。そういった意味では、特に学校の先生方から使いにくいという声は届いていない。

### 齋藤委員

今回の教科書編集について、特徴的なところを取り上げて幾つかあったらお知らせいただきたい。

### 教育指導課長

今回、出された教科書の見本本については、各者、趣意書が出されているが、その中を見ても、全般的に見られるのが、見通しと振り返りができる学習の流れを意識して教科書が編集されているという点が一点ある。またもう一点は、考える力をどのように育成をしていくかという視点が教科書の中に盛り込まれているのではないかと感じている。

### 山田委員長

これから教科書を選ぶに際し、鎌倉の子どもたちの学習課題は何か、あったらどのような点か教えてほしい。

### 教育指導課長

さまざまな調査等もあるが、子どもたちの様子を見てみると、読む力、読解力といった点とか、やはり自分の意見をまとめて相手に伝えていく力、いわゆる今の学習指導要領の中で言うと、思考・判断・表現する力をより身につけていく必要があると考えている。

### 山田委員長

先ほど事務局から、各種目詳細への質疑については、担当指導主事から回答ということがあったが、いかがか。

(異議なし)

### 山田委員長

協議に先立ち、協議の進め方について諮る。

私たち教育委員も、本日の教科用図書採択に向けていろいろな形で勉強会をしてきた。そして事務局から事前に配付された教科用図書見本本や調査員作成の資料、検討委員会作成の報告書などの各種資料もご覧になっていると存じる。

進め方としては、検討委員会から報告された平成27年度使用教科用図書調査研究報告書(小学校)に記載されている国語から保健まで11種目を、1種目ごとにどの教科用図書が最適かご意見をいただきながら協議を進め、最終的に採択候補をひとつに絞っていくこととする。

委員の皆様には、検討委員会から出された報告書の内容や教科書をご覧になっての感想やご意見を出していただきたい。なお、発行者については略称で願います。

(異議なし)

### 山田委員長

では、国語についてご意見を願います。国語は5者から選ぶことになる。いかがか。

### 齋藤委員

私は、学習指導要領の目標、また教育の内容等に沿っているかということを考慮して考えていった。まず、各領域、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと。学習指導要領に示された言語活動例と伝統的な言語文化の教材例等について、適切に取り上げられているかを読んでいた。

また、学年別漢字配当表の内容は満たされているかどうか。漢字や新出語句の例示は適切であるかを、丁寧に調べていった。その結果、各者それぞれ内容は満たされていた。読めば読むほど魅力を感じ引き込まれていく、そのような特色ある教科書ばかりだった。その中から、私は光村を推薦したいと思う。

その理由は、各学問発達段階に応じた題材であり、現在だけでなく未来につながる作品がたくさんあり、児童が主体的に学習できるように工夫されている点。また、読むことの領域では、読み継がれてきた作品が多く、情緒的な面や道徳的な面を育成できる。慣れた教材であるがゆえに、子どもたちを育てることができるのではないかと感じた。慣れているがゆえに、指導者にとっても指導の見通しを持つことができ、指導に工夫改善を行える。私も以前指導していた立場なので、余計にそれを強く感じた。

次に、人としての生き方や命の大切さ、戦争と平和についても道徳的要素が含まれる価値ある教材がたくさん取り上げられているということ。「季節の言葉」「漢字の広場」や「学習を広げよう」など、発展的な学習の組み立てがあり、幅広い学習となると考えた。もちろんほかの者でも、教出等では、付録で「言葉の木」とか「漢字を学ぼう」とかという正しく習得し定着させるための工夫がたくさん見られたとてもよい部分もあったが、先ほど述べた状況の中で私は光村を選んだ。

### 朝比奈委員

私も齋藤委員と意見が同じで、光村を推したい。齋藤委員がおっしゃっているように、どれも本当に魅力的なつくりになっているが、強いてこの中で選ぶとするならば、総合評価の内容のところにもあるが、読み継がれてきた定評ある作品だけでなく、「今」を見詰めて未来につながる作品を選んでいる。こういうところは少し秀でていたと思う。

## 下平委員

5者の比較検討の中で、私は、最後まで三省堂と光村で非常に悩んだ。三省堂のよいところとしては、2年生以降、別冊の付録がついている。これが充実したよい自学・自習できる資料になると思ったことと、あとは全体的な表紙や紙面構成の美しさ、それと小学生に読ませたい作品が多く掲載されているという理由で捨てがたいなど、最後まで悩んだ。

ただ、光村も長年支持されている図書だし、伝統的な言語文化とか「季節の言葉」などには大変魅力的なものが取り上げられていた。それから、単元の冒頭に各学習の目標が明確化されており、また、まとめもしっかりとした記載があるという意味では、非常に学びやすいし伝えやすいものに編集されていると感じた。

## 山田委員長

私は、まず教科書全般を見渡したときに、装丁が少し残念なものが見受けられると感じた。また、キャラクターがナビゲーターになって登場するものも多くあって、その中で教科書を考えて場合、私は教養を深めたいという欲望をかき立てられるようなアカデミックな香りのするものを選びたいと思った。

その点で見ると、例えば光村はすっきりとしていて、題名も「国語」としか書いてない。ほかは「小学生の国語」だとか「新しい国語」だとかいろいろな装飾がついているが、そのシンプルさもよいと感じた。内容的なものは、各者のよさがあったと思う。その中で、私も内容を読んでみて、光村が一番よろしいと感じた。特に、先ほど教育指導課長から、読解力が鎌倉の子どもたちの課題というお話があったが、読み物を全部読んでみた中で、割とほかの教科書や東書などは、自分で児童が手に取りそうなお話も数多くある中で、教科書というのは子どもがもしかしたら読まないかもしれない、ちょっと縁遠いものも入っていたほうが世界は広がってよいと思った。

## 安良岡教育長

私も光村がよいと思った。特に内容によってページの紙質を変えていたり、あるいは全体にページの色を変えるとか、ここは他の部分と違うんだよと、子どもたちにも教科書を見ている中で分かっていくところがあるので、光村がよいと考えている。全体的にも、どう学んでいくのかの部分でも見通しを持って学べるようになっていっていると思う。東書の方も、読むことの領域の説明文のところでは、身近に起きる事柄に目を向けたり、自分の考えを広げたり広めたりするという取り組みの中で、話したいこと、それから嬉しかったことを伝えるにはどう筋道を立てて話せばよいのかを考えられる教材とか、あるいは教出の方でも発表メモを使って自分の話すことをしっかり筋道を立てて話せるようにするとか、いろいろ組み込まれているが、教科書全体の構成から光村がよいなど考えている。推薦したい。

## 山田委員長

ただいまの各委員のご意見をまとめると、国語は光村がよろしいということになるが、いかがか。

(異議なし)

## 山田委員長

では、国語は光村図書出版株式会社を選定する。

次に、書写についてご意見を願います。書写は6者から選ぶことになる。

## 下平委員

6者の中で、こちらの資料にも二つ星、三つ星ついているが、光村とそれから教出、日文との間で最後まで私は比較検討をした。

まず、日文は、非常に表紙のつくりがあでやかで、おもしろみがあったこと。それから、用具の片づけに関して非常に丁寧に書いてあったことが、私は好感が持てた。また、小学校1年生の書く見本の中で「ありがとう」とか「ってきます」とか、家庭の中で頻りに声に出してほしい言葉が丁寧に取り上げられていることも、好感が持てたところである。

光村に関しては、鉛筆や用具の持ち方や姿勢に関して、きれいに丁寧に取り上げてくださっているということ。それから6年間を通じて、今の日常生活に欠くことのできないようなエアメールとか、案内文、それから封筒の書き方も縦書きと横書きが取り上げてあり、日常生活の中で生かせるような工夫があると思った。それから、「文字の歴史」というページが光村にはあるが、これが非常に参考になるよいものであることに惹かれた。見本の中に中心線が明確に捉えられるようにつくられているということも特徴的と思った。

ただ、私が1カ所気になったのは、光村の場合は、なぞりが非常に多くて、白抜きで実際に児童が自分で書くというページが、特に低学年の場合、少なかった。なぞりが多いということがどうなのかということ、何人かの先生にも質問をしたところ、特に低学年のうちはなぞって覚えることがすごく大事なことで、それに関しては特に不便さを感じないし、むしろその方が教えやすい、勉強しやすいのではないかというご意見もいただいたので安心した。

そのような比較検討を重ねた結果、最終的に光村の書写の教科書を推したいと思う。

## 齋藤委員

私も幾つか特徴を捉えてきたが、例えば、ある会社では本当に興味・関心を強めるような「トライ」「チャレンジ」「目当て」「知りたい」というコーナーを設けて取り組んでいるところとか、それから毛筆の基礎や基本の定着を図れるような細やかな指導も行き渡っているという印象を受けた。

最終的には、光村がよいと考えたが、それに関しては、各学年の書写の資料として、教出等の他の会社でもあるが、手紙の書き方、それが縦書きであったり横書きであったり、はがきの書き方、エアメールの書き方等、また新聞の書き方の工夫等とか、身に付けておきたい事柄がきちっと提示されている。学びの門が非常に広いと感じた。

それから、学習指導要領の教育内容の主な改善事項の中の伝統や文化に関する教育の充実というところで「もっと知りたいな」というコーナーがあって、筆ができるまでであったり、紙や墨やすずりができるまでであったり、判子のつくり方であったり、鉛筆ができるまでという伝統的な文化まで学習の中に取り入れていこうという配慮が非常に見られた。字も見や

すく、教科書自体とても親しみが込められるものであったので、私も光村を推したい。

#### 朝比奈委員

私は日文、あと光村で悩んだが、いずれかのよい点を述べると、片方がそれを満たしていないのかというと、よく読むとそんなことはなく、強いてどちらかを選ばなくてはいけないとするのならば、光村がいろいろな意味で整理されているように印象を持つ。これを見てちゃんと勉強すれば、私ももう少し字が上手になるかなと思って、光村を推したいと思う。

#### 安良岡教育長

私も検討委員会の報告書にあるように、教出、光村、日文と三つの教科書がまずは残ってきた。日文も非常に魅力的だなと思いつつも、皆さんお話のように、光村が全体的に構成として一歩リードしていると思う。鎌倉の子どもたちにとっても、このあたりのところを各学校での指導の中で今後も充実してほしいという思いがあるので、光村でお願いしたいと思っている。

#### 山田委員長

私も、いろいろな皆さんが挙げた点から光村と思っている。

それでは、書写については、光村ということになるが、よろしいか。

(異議なし)

#### 山田委員長

書写については、光村図書出版株式会社を選定する。

次に、社会についてご意見を願います。

#### 安良岡教育長

皆さんから意見を出していただく前に、検討委員会の報告書を見ると、総合評価が東書と教出と同じ三つ星が二つある。我々、教育委員から意見を述べる前に、検討委員会でどのような話し合いがされたのか、ご報告いただければと思う。

#### 指導主事

三つ星がついている東書と教出2者について、検討委員会で出ている内容を説明する。

一点目は、教科書の構成について、どちらの教科書も課題設定から発展的な学習まで問題解決的な学習の課程など、学習の流れが分かりやすい構成となっている点が評価された。

二点目は、資料の扱いについて、資料の提示の仕方が、子どもにより考えさせる提示の仕方となっているのが教出で、一番豊富な資料を掲載しているのが東書であった。また教出は、神奈川県に関する資料が多く、身近な資料で学習できるとの評価だった。

三点目は、表記・表現について、それぞれどちらも子どもにとって分かりやすい表現がなされている中で、多面的、多角的に表現され、子どもたちにより深く考察させるような表記

をしているのは教出との評価だった。

以上のことから、鎌倉の子どもたちにより適しているということで、この2者が星三つの評価となった。

#### 山田委員長

社会は4者から選ぶことになる。ご意見はいかがか。

#### 朝比奈委員

総合評価が高い2者で、私も悩んだ。ほとんど遜色ないといってもよいと思われるが、特徴として、鎌倉の児童のみんなに勉強する頼りにしてもらおうと思う教科書だとするならば、神奈川県がより多く取り込まれていることがリードするポイントになるだろうと考え、私は教出を推す。小学校の1年生から6年生まで使うにあたって、教科書1者で1年生向けとしてどうなんだろうとか、上級生向けとしてどうなんだろうということもあろうかと思うが、多少、特に鎌倉の地元のことに関して、不足の点は先生が授業の上でいろいろと工夫していただけることも信じて、教出がよいと思う。3、4年生の上巻巻末の「わくわく社会科ガイド」というのも、なかなか楽しめるような工夫だと思われる。教出を推す。

#### 下平委員

最終的に、私も教出を推したいと思う。東書も、例えば「さまざまな人の話」というスペースがあるが、消防署の職員の話とか、おまわりさんの話とか、地域の方の話とか、そういう興味深いコメントなどが取り上げられているとか、または自分でまとめができるスペースをとっているなど、特徴ある工夫があるなということで捨てがたいと思う。

最終的に、3、4年の巻末についている「わくわく社会科ガイド」もなかなか興味深い内容であるということ。それから、あとは全体に各章「つかむ」「調べる」「まとめる」「深める」という段階ごとにしっかりと自分自身で主体的に学びが進められるような工夫がなされていることも魅力があると思った。最終的に教出を推したいと思う。

#### 齋藤委員

私も悩んだうちのひとりだが、資料と活字、写真等を含めて考えた。推そうと考えたのは教出だが、東書も資料の数が豊富で、文字は小さいが、それだけ資料が多いということ、そして情報量も多いので、子どもたちに学ばせることがたくさん与えられるということ。また、学びのコーナーがあり、自分の考えを説明したり話し合ったりして、学習をより深めることができる教科書だと感じた。

しかし、最終的にはいろいろ検討の結果、教出を考えた。まず、授業の中で中心になる資料が大きく掲載されているということ。1ページの中の資料が精選されているということ。そして資料の数も、ほどよくポイントを得た形で提示されているということ、とても読み取りやすいと考えられた。それから、先ほどから出ているが、神奈川に関する資料が多くて、児童が身近に感じつつ楽しんで学習ができる。またはそこに赴くこともしやすいということ、生活の中に入れられるということ。それから、学習の流れが「つかむ」「調べる」「ま

とめる」「深める」という構成があり、興味や関心を持ち、意欲的に学習に取り組める。学習の目的をはっきり持たせることができ、子どもたちも非常に楽しんで学習できるのではないかとということで選んだ。

### 安良岡教育長

私も東書と教出と、課題の設定から授業の流れを考えると、本当にこの2者がどちらとも甲乙つけがたいなと考えている。鎌倉時代では二つどうなのかと見ていくと、東書の方は鎌倉時代の内容が特に多い。特に鎌倉街道については、ちょっと多目に記述がしてあるかと思う。この関東近県のいろいろなところに行くと、鎌倉街道という言葉もだんだん子どもたちも目にするようになってくるが、何なのだろうか。なぜこんな離れたところに鎌倉街道という言葉があるんだろうかというところに繋がるのかと思った。

ただ、教出は、それぞれの学年で神奈川県資料が非常に多いという中では、自分たちが勉強する教科書、身近なところの資料が、あるいは自分たちが日ごろから行って実際に生活してみる、あるいは観光で行ってみるとか、行ったことのあるところの資料が多くあるというところで、特に横浜なんかは、吉田新田は埋め立てたところだとは子どもたちは思っていないのかなと思うし、そういうところで、教出が私も適していると考えているが、ごみの有料化を書いていたのが日文だけだったので、鎌倉だとこっちが合っているのかと思ったりもしたが、社会科はやはり教出で推薦したいと思っている。

### 山田委員長

全体を通して教科書を選ぶときに、子どもが高学年になるにつれどんどんランドセルが重くなっていっていくことを考えると、できるだけ教科書を上下に分けた薄いものにしてあげたいという気持ちを頭の片隅に持ちながら見ていた。

そのような中で、三つ星の東書と教出、それぞれに委員の皆様がおっしゃったよさがあったと思う。その中でもう一つ、非常によいと思ったのが光村で、こちらは1冊に高学年はまとまってしまっているが、際立って写真が美しく鮮明で、とても各時代の印象が非常に強く描かれていると思う。図式も非常にすっきりして全体の装丁がとてもすっきりして見やすく、格調高く、並べて見たときには光村が非常に私は魅力的に感じた。

しかし、東書も光村も言葉というところがあって、これは児童が一人で、自分で復習するには非常に使いやすいのではないかと思った。ただ、すっきりしているということはスペースが多いということで、それによって資料が若干他者に比べると少なくなっているのが残念に感じた。

その点を6年生あたりの歴史と比較してみると、教出がいろいろな意味では一番充実しており、特に巻末にこういった地理と歴史を一緒に考えられるような「歴史を地理で振り返ろう」というコーナーもあり、非常によいと感じた。そのようなことでわずかな差だが、私も教出を選んだ。

ただいま各委員のご意見をまとめると、社会は教出ということになるが、よろしいか。

(異議なし)

## 山田委員長

では、社会は教育出版株式会社を選定する。

次に、地図についてご意見を願います。

## 朝比奈委員

地図は、東書と帝国と2者であるが、本当にどの教科の教科書も印刷がものすごく美しくなっていて、ことに地図帳、私が知る限り、過去はこんなきれいな地図帳だったろうかというぐらい発色がよい。帝国に比べると東書の版が少し大きい。何よりも、くっきりとして字も見やすく工夫しているように見える。特にちょっと老眼が来てしまった私にとっては、一番奥の索引の字が帝国は小さく感じて、それだけとったら東書は資料としても見やすくてよろしいのかなという気で見えていたが、先ほど来、教科書としての格調の高さということも選択の基準として言葉が出ている。そういう点で見ると、帝国のいかにも地図らしい地図、そして格調の高い雰囲気、これは3年間の使用に耐えられるよう工夫されているという評価の内容のコメントがあるが、折り目にコーティング補強してあったり、いろいろな工夫がしてあるわけだが、ここまできちんとできていれば3年どころか、本当に手元に置いておいて長く使っていける気がする。

東書もすごくきれいでよいが、その発色のよさが若干逆にあだになって、目がちかちかするというか、老眼に優しくないと気がしたが、ぱっと見、観光ガイドマップの地図は多分こういう感じで目を引くような体裁が多いと思うが、やはり地図だから地図らしい格調の高さを考えて帝国を推したいと思う。

## 下平委員

私は、息子が西鎌倉小学校で4年生のときにもらった地図帳を我が家で相変わらず使っているという状態で、何か土地を調べたりするときに活躍しているご家庭も多いのではないかと思います。そういう意味で、読み物としてというよりも、活用しやすい、1ページ開くと、その地域の情報が非常にコンパクトにしっかりとまとめられているのが帝国である。そして、今回の委員会の報告を読むと、折り目部分にコーティング加工してあって長持ちするようにつくられているという工夫もあった。そういう意味で教科書として、そしてぱっと使えるという視点で考えると、帝国の地図帳の方が使いやすいのではないかと最終的には感じた。

あとは防災プレートの位置や地震分布などが非常に明確に描かれていて、そして防災マップづくりをしようという取り組みなども取り上げられているというところも非常に興味深く拝見した。

確かにちょっと見、東書の非常にダイナミックな地図帳というのも魅力があるので捨てがたいところはあると思ったが、小学校で使う地図帳と考えると、帝国を推したいと最終的に思った。

## 齋藤委員

私も皆さんと同じように、例えば東書の場合はダイナミックで目を引くというところだと

でもよい。ただ、字の見にくさがちょっと感じられる。それから、帝国の方は、まず見やすい、そして使いやすい、子どもも大人になってからも使えるものである。それから見始めると次々と何かを発見できるよさが全体に表れていて、気付くことが増えるということ。子どもたちがそれを見始めたときに次から次へと発展していくのではないか。子どもが楽しんで地図を見て、より見識を深めることができる、それが帝国の地図帳と感じた。私も帝国を推したいと思う。

### 安良岡教育長

私も帝国の地図帳がよいと思っている。例えば、関東地方を見ると、帝国の方が何となく高低差が認識できるような気がする。なぜかというのはいちよつと私もわからないが、あと東書の方は県名が白抜きの文字になっている。確かに東書は文字が大きくて見やすいところはあるが、白抜きの県名の文字が、私には見にくい。ほかの市町村名のところも文字が大き過ぎて、逆に地図の邪魔をしている気もする。帝国は、世界の地図のところで色分けして国別に示している。子どもたちにとっては外国の国名が色分けされていることは非常に分かりやすい、理解につながるだろうと思い、帝国にしたいと考えている。

### 山田委員長

地図は帝国が定番と思っていたが、2者を比べると、最初は東書の高さが非常に見やすく感じた。光らないというのと、それととてもよいと思ったのが、最初のページに「ながめてみよう日本の姿」というのがあって、全く何の文字も数字もない日本の地形がそのまま表れているのが、国土の姿をいろいろな方面から子どもに想像力をかき立てるような作用があるのではないかと思い、とてもよいと感じた。

帝国はどうなっているかと思うと、宇宙から眺めた日本列島というのがあって、宇宙飛行士がナビゲートして、かなり遠くから日本を眺めるというのもまたよいなと思い比べたら、その後の巻末の資料は、ほとんどどちらも同じような内容が載っていた。そういう意味では、一瞬東書がよいかと思ったが、先ほど来皆様がおっしゃっている、かえって見やすくするつもりが見にくくなってしまっているのではないかという点と、イラストが多過ぎて肝心の河川の線とかが非常に見にくくなってしまっているのは残念だなと思い、私も最終的に帝国にした。

皆様のご意見をまとめると、地図は帝国になるが、よろしいか。

(異議なし)

### 山田委員長

では、地図は株式会社帝国書院を選定する。

ここで一旦休憩とする。再開は15分後で2時半再開とする。

(休憩)

## 山田委員長

それでは、教育委員会 8 月臨時会を再開する。  
算数について、ご意見をお願いしたい。

## 安良岡教育長

算数については、先ほどの社会科と同じように、検討委員会の報告書の総合評価が東書と学図と三つ星が二つある。その点を検討委員会の様子を説明していただきたい。

## 指導主事

特に今出た東書、それから学図の 2 者についての特徴として挙げられる構成の部分と学習の振り返りについて説明をさせていただく。

まず構成の部分だが、東書は算数と日常生活とを結ぶ内容で、算数の必要性が実感できる。また学図では、日常生活と算数を結ぶ取り扱が多く、特に理解の難しい分数の取り扱いなど、系統立てられている。教科書全体を通して、より理解につながる構成となっている。

続いて、学習の振り返りについて、東書は、既習事項の振り返りとしてスパイラルによる学習活動が設定されている。また学図は、学習の振り返りとして「問題が解けたらチェックしましょう」といったコーナーで、学習内容の確認とともに自己評価をして内容を振り返るといった設定がある。

## 山田委員長

では、算数は 6 者から選ぶことになる。

どこも、昔のようないわゆる算数という教科書よりは、身近な事象をうまく写真や問題の中に取り入れて、私たちの時代よりも非常に親しみやすい算数の教科書になっていると全体を通して感じた。

教出は、「はてな」「なるほど」など各章ごとのまとめがあり、自分で問題を解決するよう導いていて、非常に自習がしやすいのではないかと感じた。これだと算数が得意でない児童でも使いやすいのではないかと思った。

しかし「中学校へのかけ橋」など、中学校の数学につながる教育がされていたり、発展的な問題があるということで、学図がすぐれていると感じている。また学図の学習カードが見やすく、児童の自主的な発想や気づきを促す工夫がされていると感じている。今申し上げた 2 者は甲乙つけがたいが、あえて選ぶとすると、私は学図がよろしいと感じる。

## 下平委員

6 者の中で比較検討したが、私は迷いなく学図がよいなと思った。これは教科書として非常に表紙に意味があり、それでいて、すっきりとした教科書らしい紙面構成などに工夫があるなと思った。一点ちょっと気になったのが、学図の場合、5 年生から 1 冊になっている。重いというのはあると思うが、別冊で「中学校へのかけ橋」がついていて、算数の中学への移行を非常に考えたつくりになっている。そのために 5 年生から 1 冊となって中学へ繋ぐという流れがつけられていると感じた。そして「算数探検隊」という各教科書のスター

トラインに、非常に分かりやすい、1年間で学ぶ算数の知識についてのポイントが興味を導入するようにつくられているということ。それから「力だめし」や「サポート」「チャレンジ」そして問題が解けたところで、自分でチェックを重ねていきましょうという自己評価なども使いやすつくられている。そういう意味で、いろいろな観点から工夫がなされていて、非常によい教科書に仕上がっているのではないかなと私は感じたので、学図を推したい。

### 朝比奈委員

私も学図を推薦したい。東書もちろん甲乙つけがたいものはあるが、強いて言えば言語活動の充実、これはどれもほぼ満たしているはずだが、でもどちらかというと学図なのかと。算数用語を分かりやすく解説しているとか、問題が解けたらチェックする、学習内容の確認や自己評価がしやすくなっているという点では、一番整理ができている教科書なのかと思う。

私ども時々学校にお伺いして授業を見学させてもらっていると、算数の授業というのは、先生が算数の苦手な人に対しても興味を失わないように、いろいろな工夫をして進めてくださっているように見られるが、そういう点においても、楽しく、また紙面も明るく見やすいのが学図であろうと思うので、学図を推したい。

### 齋藤委員

私も学図を推したいと思う。理由は、児童の思考過程に合わせ、教材や学習内容が無理のない配列になっている点。それと身近な場面を利用し、考えやすい教材を扱っているということ考えていった。また学習内容をまとめてしっかり定着させる工夫がなされている点。それから「算数自習コーナー」というのがあり、「力だめし」のところに「問題が解けたかチェックしよう」とか「計算の仕方を思い出そう」また「振り返ろう」ということが書いてあり、自己評価をし、学習を楽しみ意欲的に取り組めると感じた。また、より算数的思考が育ち、算数を好きになる子どもが育っていくのではないかと期待ができる学図を選んだ。

### 安良岡教育長

私もこの検討委員会の意見、総合評価と同じように、二つの教科書会社を考えてみた。特に算数では、2年生の九九の部分、それから3年生に入ると小数や割り算、4年生では分数という、子どもたちがつまずきやすいところが多くなってくる。どういう風に教科書の内容をつくっているか、先生方にとっても大きな参考になる部分だと思うが、東書の場合には、單元ごとに常に既習内容を振り返る場を持っていて、それを次の学習の導入にしているという部分でも非常によい部分だと思う。また、学図では言葉のコラボを設けたりする中で、やはり言語活動の充実という部分で取り組んでいる。それから、学図では、先ほど説明があったように「力だめし」のところで「問題が解けたらチェックしよう」ということで、自分でもう一度振り返ってみるというところも理解につながる構成になっているので、私も学図を推薦していきたいと考えている。

### 山田委員長

それでは、意見が出そろったようなのでまとめると、算数は学図が皆さんの一番よろしい

と考える教科書のものであったが、よろしいか。

(異議なし)

#### 山田委員長

では、算数は学校図書株式会社を選定する。

続いて、理科についてご意見をお願いしたい。理科は6者から発行されているが、信州教育出版は教科書の見本本が送付されていない。教科書趣意書と神奈川県調査研究のまとめのみの資料しかなく、調査研究ができず、皆さんからご意見をいただけないため、見本本が送付されている5者から選ぶこととすることによりよろしいか。

(異議なし)

#### 山田委員長

では、ご意見を願います。

#### 下平委員

理科は、私が、選定していくときに各者全部押しなべて比較しながら、それぞれの特徴とか、よいところ、気が付いたところなどを書き上げて選んでいくようにしているが、理科に関しては、飛び抜けて学図に関してよいなと思う点が多く、本当に迷いなく学図がよいのではないかと感じた。

特に、観察したり、実験をしたりしている子どもたちの写真を各者とも取り上げられているが、学図の子どもたちの生き生きとした表情や見つめている目の輝きが群を抜いて魅力的に描かれていたということ。それから、さまざまな写真などがダイナミックで非常に美しく取り上げられていた。それでいて紙面構成、イラスト等の使い方がすっきりして見やすくなっていた。

他のところには、例えばアトムが出てきてナビゲートしていくという作りもあったが、この学図の場合、植物史を書かれた牧野富太郎さん、キュリー夫人とか、ガリレオ・ガリレイとか、野口英世さんとか、そういう方々がナビゲートしていくという作りになっていて、そしてさらに各教科書の最後に、例えば牧野さんがナビゲーターだとしたら牧野富太郎さんの伝記が非常に興味深く取り上げられていて、読み物としても興味を引くようにつくられていた。

おそらく小学校の教科書というのは、割と各教科の連携も考えられていると思うが、理科の教科書でありながら理科の興味をいざなうような詩がうまく取り上げられたりしているところも大変魅力的だと感じた。あとは、単元ごとに話し合いと考察をして、観察・実験をして、そして予測を立てて、最後は発表やまとめをしてという学習の流れが明確にいざなわれているところも非常に分かりやすくつくられているように感じた。

以上の点から、理科に関しては学図を推したいと考える。

### 齋藤委員

東書は、教科書兼問題集的な役割を果たしているような部分があった。説明が写真入りで詳しいところもあったのでとてもよいかと感じた。それから大日本は資料のページがあり、「理科の玉手箱」とか「ジャンプ」というのがあり、児童が興味を持ち発展的な学びへ導かれるのではないかというよい点もあったが、必要な資料、写真等が重要な役割を果たしているという点では、学図の写真がきれいだし魅力的だと感じた。

それから、児童の見方や考え方を大切にし、自らが主体的に学習に取り組み、課題を解決することができるような方向付けがきちっとできているという点から、実感を伴った学びとなるということで、科学的な見方や考え方を身に付け、確かな学力を獲得できるということが感じられ学図を選んだ。

### 朝比奈委員

私も学図を推す。下平委員がおっしゃっていたように、やはり群を抜いている気がする。開けてみたときの、特に実験のところの写真の取り扱いであるとか、科学する心をかき立てるような、余り地味過ぎても楽しそうに見えないし、また私は虫が苦手なので、余り虫が気持ち悪くてもいけないのかもしれないが、とにかく構成がよく、逆にけばけばしいような印刷ではない、非常に見やすいという点を評価したいと思う。授業を見ていると、実験ばかりではもちろんないと思うが、それ以外の資料的などころもかなり学図が上回っているのではないかという感じがする。よって、学図を推薦したいと思う。

### 安良岡教育長

私も、総合評価の中で三つ星であった学図を推薦したい。特に、実験も分かりやすく写真や図が示されていて、写真や図も非常に大きいものが使われているということ。それから、実験してそれで結果がどうで、そして、その結果からどういうことが考えられるのかという流れができているということ。それから、単元末には「活用しよう」ということで、振り返りの場面もつくられているということは、非常に重要なのかなと思う。また4年生の教科書では、星座のところが見開きで、春夏秋冬と星座だけで4ページ使っていて、開くと、どんな星座が見られるのかなという興味に繋がるのかと思った。

教出は、「はてな」それから「調べてみよう」とか「わかった」という流れで、子どもたちに分かりやすく疑問を持って、そしてそれにどういう疑問があるのか調べてみようでは、こんなことが分かったのか、どうなのかという流れが分かるようなつくりで教出はなっていた。

また、大日本の方は、「理科の玉手箱」とか「学んだことを生かそう」ということで、子どもたちが理科の中で使われている、さまざまな言葉の意義だとか内容を実感できるようなつくりにもなっていると思うが、総合的に判断して学図ということで私は推薦したい。

### 山田委員長

私も学図が群を抜いて優れていると思った。表紙の装丁が世界を代表するサイエンティストのポートレートとか、それを裏表紙につなげると科学者の言葉がアカデミックに描かれて

いて、一目で他の教科書と違うなという印象を受ける。装丁も落ちついていて美しく、巻頭や文中に自然にまつわる詩や科学者の伝記などがあり、大人が読んでも教養豊かな気持ちになれる。

教出も専門家のメッセージが表と裏にあって非常によかったが、先ほど冒頭に申したが、アトムがナビゲーターをしているところは、教科書としては子どもに媚びている感じを受けて残念だった。

啓林館は前回の採択でも、私は理科の教科書としてはとてもよいと思ったが、それぞれの教科書に「わくわくプラス」というのが付いていて、ここは子どもたちの記述を問う書き込むものになっていて、実験の結果や自分の考えをまとめるのに非常に有効なのではないかと思った。しかし、先ほど来申しているように、質からして学図が一番ふさわしいと考える。

それぞれ皆さんのご意見をまとめると、理科は学図ということになるのが、よろしいか。

(異議なし)

#### 山田委員長

それでは、理科は学校図書株式会社を選定する。

では、生活についてご意見をお願いしたい。生活は8者から発行されているが、信州教育出版は教科書の見本本が送付されてない。教科書趣意書と神奈川県調査研究のまとめのみの資料しかなく、調査研究ができず、皆さんからご意見をいただけないため、見本本が送付されている7者から選ぶこととするが、よろしいか。

(異議なし)

#### 山田委員長

では、ご意見を願います。

#### 安良岡教育長

生活においても、検討委員会の総合評価が三つ星は2者ある。検討委員会の状況について教えていただきたい。

#### 指導主事

生活科では、検討委員会の中で、構成と資料という点で多くの意見が上がったのでお話ししたい。

構成としては、東書は児童の気付きの質を高めるようなさまざまな具体的な活動例が豊富で、児童が活動のイメージをつかみやすい構成となっている。学図については、児童にとって身近な写真が多く、活動の参考例として使いやすい構成になっている。資料については、生活科は主に外に出たの活動や体験により学習を進めることが大切な教科となっている。

この2者の特徴として、巻末の資料が挙げられる。特に東書では「ポケット図鑑」として切り離して携帯できることが特徴となっている。このような意見を踏まえて、検討委員会の

総合的な評価としては、東書と学図になった。

### 山田委員長

では、生活についてご意見を願います。

### 朝比奈委員

私も総合評価の高い東書と学図で悩んだが、生活という科目は1、2年生、低学年の理科や社会に当たる。これから理科に関しての興味をかき立てる、あるいは社会はどうなっているんだろうという思いをもっともっと盛り上げていく大事な授業だと思う。そういったときに、まず教科書を頼りにした場合、どっちがよいのかと見ると、実はどの出版社もそれぞれ満たしているが、構成がきちっとしている学図がよろしいが、ところどころ写真が大き過ぎるのではないかと、もう少し説明があってもよいのではないかと印象もあった。そういう点で、一冊の本を通して見た場合、割とすっきりとバランスがよろしいのが東書であろうと思われるので、私は東書を推薦したいと思う。

### 下平委員

本当に東書と学図は甲乙つけがたいというか、どちらも同じような構成で魅力的ではあるが、学図は微妙にサイズが大きい。低学年が学ぶことを考えると、日ごろ小学校見学させていただいているが、小さな机で小さな体でこれを開け閉めすると考えると、逆に低学年向けだったら小ぶりがほうが何かと使いやすいのではないかと感想を持った。

東書は、先ほど「ポケット図鑑」の紹介があったが、これが非常に使いやすいように別冊になっているということ、そして、生き生きとした写真が多く取り上げられているということで、実際に使いやすいのは東書と感じたので、東書を推したいと思う。

### 齋藤委員

私も、東書、学図、どちらかなと細かく読んでいった。中でも、学図に関しては、「物知りノート」「春と遊ぼう」というところは興味を持って意欲的に取り組もうとする姿勢が育つということ。それから児童の思考を促し、活動の幅が広げやすくなっているというよさも感じたが、最終的には東書を選ぶことにした。

まず、具体的な活動や体験の気付きをさせられること。児童が生き生きと楽しく活動し、その中で得た気付きの質を高めることができる。そんな学習活動例が充実しているのが東書だったと思う。また児童が夢を膨らませ、わくわくしながら興味を持って取り組める単元構成ができているということ。それから、教科の写真や絵に表情がとてもよく出ていて、活動のイメージを児童がつかみやすいというよい点。それと、学習に引き込まれる細かい配慮をこの教科書から感じた。以上の点で東書を選んだ。

### 安良岡教育長

私は生活の中で、最初から別冊になっているのが啓林館で、「たんけんブック」ということで子どもたちが持ちやすい別冊になっていたのよろしいかなと思ひ、教科書を見ていくと、

啓林館の絵は優しい絵が多くて、内容も「わくわく」「生き生き」「伝え合おう」「チャレンジ」と四段階で構成されている。それも子どもたちにとっては分かりやすいのかなと思った。

東書と比べていくと、東書は写真とイラストが非常に効果的に使われていると思った。写真が目立つわけでもなく、イラストが目立つわけでもなく、紙面を構成する中で本当に写真とイラストがうまくマッチングして紙面がつくられているというところ。それから、子どもたちが外へ出ていくことが多くなる中で、「約束」とか、「探検名人になろう」というところで、こんなところを守りましょう、こういうところを行ったら調べてみましょうということが子どもたちに分かりやすくページの右側書いてあるところは、子どもたちにとっても、あるいは指導する先生方にとっても、非常に使いやすい教科書だと思い、東書が生活としては適していると思う。

### 山田委員長

私も生活という教科は8者、こちらで検討した中で7者から出ていて、会社によってかなり充実度に差がある気がする。その中で東書と学図、啓林館の3者で比較した。生活は写真やイラストの充実が大事で、授業の中では資料集的な位置づけではないかと思う。その中で東書は、非常に中身が濃く、そしてイラストと写真のコラボレーションというか、配置がとてもよく、中身が充実している割には余り見づらくなくできているという印象である。

啓林館も非常によいと思って「たんけんブック」というのが、私も朝比奈委員同様虫が苦手なので、これを見て勉強しようかと思ったが、実際は中身にばらつきがあり、虫は非常に詳しいが、それ以外のページがというところがあったり、「ありがとう」というだけで一面こんなにページを割いているところがあり、生活のいろいろなシーンで感謝の気持ちを持つことがあるということを言いたいのではないかと思うが、これは教科書で勉強することなのかと思った。

教科書に問われているものを一番満たしているのは、東書ではないか考えた。

以上の皆さんのご意見をまとめると、生活は東書がよろしいということになると思うが、いかがか。

(異議なし)

### 山田委員長

では、生活は東京書籍株式会社を選定する。

次に、音楽についてご意見を願います。音楽は2者から選ぶことになる。ご意見はいかがか。

### 朝比奈委員

音楽の教科書は、ものによってそんなに大きな違いは出しにくいのではないかと考えて臨んだが、低学年と高学年とはまた違ってくるし、例えば器楽の演奏であるとか、音楽の歴史はさまざまだと思うが、特に今どの教科書も写真が非常にきれいで豊かで、これをうまく活

用するかしないかで、その教科書を見て、あまり音楽に特に関心がないお子さんであっても関心を持てるような、逆に言うと、変な写真を使っている印象が悪いと、私も実は小さいときにクラリネットを親に買ってもらって、買った教則本のモデルのおじさんの顔がちょっと変な顔だったので、それからクラリネットも身につかないまま終わったという経験があるが、写真はすごく大事だと思う。

そういう中で、やはり教出がよいと思う。曲の選定も、多分どこの出版社も工夫していると思うが、特に昔から親しまれている曲から今の新しい曲までいろんな曲を扱っているし、授業というのは必ずしも教科書だけで行うわけではないが、とにかくこれを見て楽しさをより抱くと言えるのが教出だろうと思う。さまざまなことを系統的に配列されている。これは中学に行っても役立てられるような教科書の構成になっていると思い、教出かなと。総合評価では逆の意見だが、構成のよさを考えた。

### 齋藤委員

私は2者の中から教出を選んだ。自分が教師であったころのことを思い出して、自分が音楽を教えるのであれば、もしかしたら教出でなければできないという思いを持った。というのは、低学年の場合は非常に教芸も教出も軽やかに子どもたちが楽しんでできる。そうすると、私の能力でも楽しんでできる。ところが高学年になると難しいものが出てくるので、そういう点でいくと教出。子どもにいろんな経験をさせられることを考えると教出かなと。

教芸は、先生と子どもたちがつくり出していく音楽で楽しませる。また力を伸ばすことができるのではないかと。無理なく取り組めるような工夫がされているというよさも感じたが、次の点から教出を強く考えるようになった。

まず、思い浮かばせられるような歌唱の情景がとてもきれいに映し出されている写真があること。それから、低学年ではリズム遊び、手遊びなども、写真や絵でどのようにすれば上手に身体表現が楽しめるかということをメインに考えている教科書だということ。それから、音楽の世界に親しめるよう、さまざまな歌唱曲を幅広く扱っているということ。それから、鑑賞についても児童の発達段階に応じた教材が配列されていて、音楽の魅力を感じさせ嫌いにさせない、音楽に世界にどっぷりつからせることができるのではないかと思い、教出を選んだ。

### 下平委員

報告書によると教芸が三つ星で、確かに教芸は非常にシンプルで使いやすく、昔ながらの音楽の教科書ということで、必要なものが過不足なくきちんと描かれていると思った。私が小学校のころ、それから息子のときを思い出しても、音楽の教科書はすごく楽しみだったのと、地図帳と同様にまだに残っている教科書で、例えばちょっとピアノで弾きたいなというときにペラペラ見るとよい曲が載っていたりする。そういう意味でも、読んでいて楽しくなるような、そして幅の広い楽曲がおさめられているのも教出は魅力があるなと思った。

それと私が非常に心惹かれたのが、4年生、5年生、6年生の教科書で、4年生は元ちとせさん、それから5年生は五嶋みどりさん、それから6年生は辻井伸行さん、さまざまな音楽の世界で活躍する方々から「皆さんへ」という子どもたちに対するメッセージが寄せてあ

って、これが音楽への興味などを引く工夫として描かれているところが魅力的だなと思った。本当に各紙面構成にいろんな工夫がなされていて、紙質もいろんな紙質を使ったりして楽しみながら使えるようになってきているという意味で、大変音楽の教科書として魅力的につくられているのが教出だなと強く感じ、最終的に教出を推したいと感じた。

### 安良岡教育長

音楽は2者しかない中で、三つ星と二つ星という、私どもも見ていくと難しい判断をしなければいけないと思うが、検討委員会でどんな状況だったのか教えていただくと、もう一つ決めていくときに私どもの判断材料になる。特に3年生でリコーダーが入ってくるが、リコーダーも、子どもたちにとってはすぐ演奏できる子もいれば、なかなか指使いがうまくいかない子もいる中で、検討委員会でどんな意見が出たのか、教えていただきたい。

### 指導主事

音楽については、検討委員会で構成と内容という点について意見が多く出された。一点目は、教科書の構成についてである。教出については、イメージを喚起しやすい写真やイラストが豊富に掲載されている。教芸については、教科書のページ左側のカラーの帯や目次に題材目標が色分けして示されており、児童が狙いを意識しやすいようになっている。

二点目は、内容についてである。教出は、昔から親しまれている曲から新しい曲までさまざまな音楽形態やジャンルなど幅広い教材が扱われている。教芸は、器楽の楽器の導入時、児童の実態に合わせてポイントが分かりやすく丁寧に説明されている。以上のことから総合的に評価した結果、検討委員会では教芸が星三つの評価だった。

### 山田委員長

以上を踏まえ教育長はいかがか。

### 安良岡教育長

もう一点確認をしたいが、器楽等を先生方が子どもたちに指導していく上では、教芸の内容のほうが子どもたちに合った指導がしやすい。子どもたちが興味を持って取り組めるということか。

### 指導主事

教芸のほうが児童にありがちな楽器の扱いの誤りとか、正しい扱い方とか、実態に合ったポイントが掲載されているという意見が出された。

### 山田委員長

私も教芸は確かに教出と比べると多少専門性が高いという印象で、例えば音大の附属とか、そういった小学校には、もしかしたらこちらが適しているのかと思ったが、鎌倉市の小学校で考えると、まずは音楽を楽しむ、興味を持てることが大事なのかと思い、その視点から見た。

例えば、教出は、先ほど下平委員もおっしゃったが、間にちょっと質の違う変化のあるページがあって、子どもはこういうのにすぐに飛びつくし、そんなところからも興味を持つ仕掛けをつくっているかと思ったり、例えば、2年生の「ゆうやけこやけ」にも同じようなページがある。その中で、歌い方のアドバイスが白抜きであるが、教芸はただ夕焼けの様子を思い浮かべましょうというだけ、教出は夕焼けを想像しながら、さらに呼びかけるように歌おうとか、2番の歌詞にまで言及していて、この歌詞がどんなものをあらわしているのか想像してみようという感じで、みんなで歌うことに関してのアドバイスが深いと感じた。

先ほど齋藤委員がおっしゃっていた、歌の背景を絵できれいにあらわしているという点では、同じ「翼をください」という6年生のページでは、写真で見ると右側の教出は歌の大空に翼を広げてという感じが出ているのではないかと感じる。表紙も、例えば同じ6年生で比べると、教出は楽しい音楽の本という印象を持つような気がするという意味で、実際に指導する立場からはわからないが、自分がもし児童側としてどちらを使いたいかという視点で言うと、教出がよろしいと感じている。

### 安良岡教育長

子どもが教科書を見たときに、どちらに興味を持って教科書を見ていくのかと思うと、やはり私も教出と思う。ただ、先ほど検討委員会の中では、指導上のさまざまな課題もあるというお話もあったが、そこはぜひ学校の先生方の中で工夫して取り組んでいただきながら、あるいは教科の研究会等の中で取り組んでいただきながら、多くの教育委員が、教科書の子どもたちへのイメージが非常に持ちやすいという教出の教科書ということで、私も推薦したい。

### 山田委員長

意見が出そろったようなので、まとめていくことにする。ただいまの2者の中で、音楽は教出というご意見が多数であったが、いかがか。

(異議なし)

### 山田委員長

では、音楽は教育出版株式会社を選定する。

では、ここで一旦休憩とする。休憩は10分間で、再開は25分からにする。

(休憩)

### 山田委員長

それでは、教育委員会8月臨時会を再開する。

図画工作について、ご意見を願います。

### 安良岡教育長

図画工作は、開隆堂と日文の2者だが、どちらも三つ星と二つ星という総合評価である。2者とも学習指導要領にある子どもたちの豊かな発想、これらを使って手や体全体で表現する工夫だとか、それから材料の特徴を捉えて想像力を働かせて、いろいろな発想をして物をつくっていき、あるいは鑑賞の部分でも、進んでいろんなものを鑑賞して、さらに今度はそこからつくり出す喜びを味わうような作品がたくさん含まれている。

開隆堂は、作品の活動や写真が大きく掲載されていて、具体例だとか工夫などが非常に分かりやすいと感じる。日文は、造形活動などは学校だとか学級の実態に合わせて活動できるような取り組みが示されている。日文では巻末6ページにわたって、さまざまな材料と工具の扱いというのも出ている。

全体として見る中で、神奈川県資料が特に扱われているのが開隆堂であり、そして開隆堂の高学年の教科書には鎌倉彫も紹介されている中では、やはり身近なところでの作品を味わうことができる、特に開隆堂の方を私としては推薦したいと考えている。

### 朝比奈委員

私も開隆堂を推薦する。版の大きさも開隆堂は大きい、だから邪魔というよりは、かえって中の写真、イラスト等がダイナミックに見える。これは他の科目と違って、やはり大きく見えたほうが、より伝わりやすいものがあると思う。実際の図画工作の授業で、どこまで先生が児童に対して指導が行き届くのかどうか。時々学校を見学させていただいて展示している作品を見ると、先生方の個性というか、この先生はかなり丁寧に指導していらっしゃるんだろうと思われる絵と、そうでもなさそうなところと、力量に差があったりする。そんな風に見えたりもするが、特に陳列の仕方であるとか、そういうのでも見応えは違ってくるのかもしれないが、いずれの教科書を使っても、学校の先生としてはどちらでないとだめだということはないと思うが、ただ、強いて選ぶとすれば、開隆堂のほうが楽しい感じがする。どんどん図画工作に、ひいては美術、もっと高度なことに興味を持っていったならば、それは中学校の美術等で見れば、日本の伝統的な工芸に関する興味にも結びついていくと思う。ただ、どうしても図画工作の範囲だとそこまで高度ではない、しかし十分に楽しく体験ができる、鎌倉彫のことが紹介されているのも、鎌倉の学校の教科書としてはポイントが高いことははっきり申し上げてよいと思うので、私は開隆堂を推したいと思う。

### 下平委員

私も開隆堂を推したいと思う。その理由は、まずは教科書の表紙に例えば「心をつないで」とか「わくわくするね」とか「みんなおいでよ」とか、呼びかけのようなキーワードがついて、非常に心惹かれる表紙になっているということ。それと、特に高学年の教科書に関しては写真家の方、それから工芸家の方、版画家の方など、それぞれの制作に対する思いとか、図画工作への気持ちを子どもたちに育むような呼びかけ、なかなか熱い思いが描かれていて、これも興味深く読めたと思う。私自身が教科書を手にしたときに、小学校のとき図画工作の教科書が一番開いた気がする。そういう意味でも、子どもたちの興味を引くようなつくりになっている開隆堂を推したいと思う。

## 齋藤委員

私も開隆堂出版を推したいと思う。まず、子どもたちがつくってみたい、描きたいよという表現の意欲が湧くような作品や活動の様子が大きく掲載されていること。それから「みんなのギャラリー」「教室を飛び出して」とか、クレヨン・パスの使い方、道具箱云々というような技術面、技能面、そんなことを養える組み立てができていること。それから、学習の広がり非常に持てるのではないかと感じた。それとあわせて基本的な学びが一つひとつ丁寧に行われるのではないかと感じた。

それからもう一つは、作品制作の過程とか、発想のヒントなどが丁寧に示してある。そこで児童の自主的・自立的な活動につながられるような工夫がしてある。子どもたちと先生が飛びついていって何かよいものをつくり上げていくような、そんな情景が思い浮かべられる。そんなことを感じたので、開隆堂出版を推したいと思っている。

## 山田委員長

私も取り上げている児童の作品例を見ると、若干開隆堂のほうの方が優れているように感じる。しかし、芸術は作品づくりだけでなく鑑賞もまた一つ重要な部分で、その視点から見ると、「教室を飛び出して」というページがこちらの開隆堂にはあるが、日文のほうは美術館とつながるページに、充実したいろいろな全国の展示の例が掲載されていて、この面からは明らかに日文がすぐれていると感じている。

それから「光のハーモニー」とか、ここにある家の形、そういう机の上で粘土や紙を切っただけではなく、アートはいろんなあり方があるんだと啓蒙させるのは日文だなと考える。ずっと悩んで、本当はこの両方足したら一番よいのになと思っている。

それともう一つは、日文の方は、伝統文化のページが充実していて、着物の文様とか、掛け軸の構成の説明などもページを割いて行われている。小さいころから日本の文化の基礎は形で知っておいてほしいなという面から、とてもよいなと思っている。

そういう意味では、私は日文にかなり心を惹かれているが、経験のある図工の先生のお話を聞くと、指導するには明らかに開隆堂が使いやすいということなので、そちらを尊重して開隆堂にさせていただく。

ただいまのご意見を総合すると、図画工作は開隆堂ということになるが、よろしいか。

(異議なし)

## 山田委員長

では、図画工作は開隆堂出版株式会社とする。

次に、家庭についてご意見を願います。家庭は2者から選ぶことになる。

## 安良岡教育長

家庭の学習は、子どもたちが日ごろ毎日生活している衣食住、それから家族との関わりで非常に日ごろの生活がどう結びつくかというところがある。子どもたちがどれだけ家庭でも実践しているか、あるいは家庭でも家のことをどれだけ自分から体験して、積極的に取り組

んでいるかということが大切になってくる。やはり子ども自身からも家庭生活に関心を高めて大切さに気付いていくような教科であるべきだと思う。そういうことができる基礎的な技術とか知識を身に付けて、それが自分の生活に活用できる教科になっていくことが必要だろうと思う。

その中で、東書と開隆堂と2者あるが、東書は七つの題材に分けて、開隆堂は10の題材に分けている。内容的には同じ中身だが、開隆堂の方が10に分けていることで、スモールステップで子どもたちが学習できるような体制になっているのかと思う。

また、両者とも写真等をうまく使いながら取り組んでいるが、特に調理実習のところでは、子どもたちがつくるべきところが、写真なのかイラストなのか非常に難しいと思う。写真がより分かる気がするが、逆にイラストは子どもたちには考えやすい。写真だと茹で上がったとか、そういうところがイメージとして分からないが、イラストだとしんなりしているようなところははっきり描きやすく、そういう部分でこう切っていくんだとか、そういうところもイラストが分かりやすい気はする。そういう点では、東書はイラストをうまく使っているが、開隆堂も写真を工夫しながら資料として提供している中で、両者とも特に調理実習のところにおいては見開きで作業が一連して分かるように配置をして、その配置の仕方を細かく見ていくと、開隆堂は、他のミシンを使うとか、そういういろいろなところも比べて、開隆堂は作業が子どもたちに分かりやすく表示してあるなどと思う。このような実習の流れが見開きで分かりやすくなっているということや、5年生の早い段階で基礎的なことを学び、6年生でも発展的な学習ができるという取組になっている開隆堂が、私としては家庭科の教科書として適していると考えます。

#### 下平委員

私も開隆堂を推したいと思う。まずは表紙の印象だが、中のイラストも同じであるが、5、6年対象の教科書にしてはイラストが子どもっぽい感じになっていると思う。中も全体にイラストで統一されている。そういう意味で、5、6年生が学ぶのに開隆堂はすっかりしているし、学年にも向いているのではないかという印象があった。それから、巻頭に開隆堂は全て「学習の目当て」ということで、何をここで学ぶのかということが明確にされている。最後のほうには「振り返ろう」というチェックリストとか、「できたかな」ということを自分で確認するチェックシートも細かく分かりやすくつくられているという点で、開隆堂の教科書のほうが魅力的かなと感じた。

#### 齋藤委員

私も、ともによいなとは感じるが開隆堂を推したい。まず、見開きで作業が分かりやすいと同時に、楽しみながら、また手順が分かりやすく、子どもたちも取り組みやすいと感じる。そういうところからいくと、学校での実習、学んだことは、家庭に戻り実生活の中で役立てること。例えばお料理をしたら、家庭に帰って親につくってあげられるような力を身に付けさせる。そして生きる力を養えるのではないかと感じた。

それから5年生では、報告にもあるように、早い段階でミシン縫いとか、五大栄養素の働きなど、基礎・基本を学ぶよう題材が配列されていて、子どもの成長に合わせた形で役立つ

配列がされているのは非常によいなと思った。それから、学習の目当てがはっきりしていること。それから参考があつて、学習内容から視野を広められるつくりができています。そのようなよい部分を感じたので、開隆堂を推したいと思っている。

### 朝比奈委員

私も開隆堂を推す。どちらも遜色ない、ちゃんとそれぞれ押さえているところは押さえられている。イラストか写真かという教育長の指摘もあつたが、私は、写真をうまく使われていて、料理がおいしそうに見えるし、分かりやすいと判断する。要するにどちらか選ばなくてはいけないので、どちらかと言えば少し秀でていくぐらいの感じで、東書も決して劣っているとは思わないが、どちらかと言われれば開隆堂。私はぱっと見た感じのイラストの色の調子とか、ちょっと東書は子どもっぽい印象があるが、開隆堂は表紙から過程を想起させるイラストが割と落ちついた、今どきの洗練されたイラストのようでもある。よって、開隆堂を推す。

### 山田委員長

私も、開隆堂がよいかと思う。一例で比較すると、お茶をどう捉えているかというところで、開隆堂は写真で、お茶をちょうど入れるところを表現しているが、茶托をきちっと手前に置くとか、そういう配置もきちんと考えて、また指先も全部そろっている。同じようなものがこちらの東書にあるが、ちょっと指がだらしなく崩れているところが気になる。ただ、お茶の種類でいくと、こちらには抹茶が入っていて、煎茶、ほうじ茶といろいろある中で、開隆堂は、紅茶が入っていて抹茶が入っていない。日本のお茶ということでは抹茶をちゃんと入れてほしいという気持ちもあるが、そういったちょっとした同じことを扱っていても切り口が違うというところはほかの題材についても見られる。

あとは実際に使い勝手ということでは教育長のおっしゃった写真かイラストかというところで、どちらが子どもにとってよいのかというのは分からないが、私は写真の方が実際的で見やすいのではないかと考える。見開きでどんどんお料理のつくり方があらわれてくるのは、とても見やすいと思う。私は開隆堂がよいのではないかと思う。

皆さんの意見を総合すると、家庭は開隆堂というご意見が多いがよろしいか。

(異議なし)

### 山田委員長

では、家庭は開隆堂出版株式会社を選定する。

最後に、保健についてご意見を伺う。保健は5者から選ぶことになる。いかがか。

### 齋藤委員

保健についても、5者全部詳しく読んでいった。その中でシールを使ったりとか、それから資料が多く取り入れられているところとか、親しみが湧くような写真、イラストがあるとか、たくさんよいところはあつたが、私は最終的には東書を選んだ。

その理由として、課題とか、それから活動内容をマーク統一で言葉で明記し、学習の流れ、活動内容が一目で分かるように工夫されていること。中でも「考えてみよう」とか「調べてみよう」「活用して深めよう」とか「つなげよう」「広げよう」このような言葉がたくさん出てくるが、そういう中で思考、判断、表現する活動を設定して、非常に表現力を育てられるのではないかということによさを感じた。

それから、各章の最後にある資料ページの「広げよう」では、豊富な資料で今まで学習してきたことをより発展させること、それから学習をもっともっと興味を持って深めていくこと、広げていくことができるようなつくりができています。子どもたちが自分でどんどん読んでいたり、もっと探っていたりということによいのではないかと思った。

また別のことだが、健康問題、それから防災、防犯、いじめ等の今日的課題に対応する内容がとても充実していた。また、困ったときの相談窓口が掲載されている等、細かい配慮がなされていた。それから、保健学習をする子どもたちはちょうど思春期を迎える時期になる。その思春期を迎えた児童が自分だけではなく他人も尊重して、相手を思いやる気持ちも考えられるような設定がされているところに感心させられた。したがって、東書がよいなということに推したいと思う。

#### 朝比奈委員

私も東書を推す。細かいところを一つひとつ見ていくと、例えば怪我の処置の仕方などで、火傷のときはこうするとか、いろいろある説明が、実は学研もかなりよい。見やすく、ここに関して言うと学研が分かりやすいのではないかということもあるが、教科書は、それだけではなくて総合的に見なければいけないと思う。そういった意味で、構成、そして写真や図の鮮明さ、バランスを思うと、東書がよろしいと思うので、東書を薦める。

#### 下平委員

私はメンタルヘルス、心の健康が専門なので、保健体育に関しては、今、問題になっている子どもたちの心の健康ということが大切に扱われているかということに興味深く拝見した。その点からいくと、東書と大日本が非常にすぐれていたと感じた。さらに大日本、ほかの各者ともこういう時期だから薬害とか、飲酒、喫煙の問題、そういうものはどこも扱っているが、エイズに関してきちんと取り上げていたのが大日本であったということで、これは捨てがたいと思った。ただ、全体を通して見ると東書は構成がすっきりしている。それから「広げよう」というコーナーでは、思いを広げたり、先生・児童が発展した学習に繋げていける構成になっていたり、学習を振り返るページも充実しているように思う。

先ほど最初にお話ししたように、心と体、それから心の健康、さらに東書はより豊かなコミュニケーションで、孤立しがちな今の子どもたちの現状なども踏まえ、その点にも触れてくださっていることが非常によいなと思った。そして不安や悩みを抱えたときにどのように、それを克服し乗り越えていくのかも丁寧に扱ってくださっているということで、東書を推したい。

#### 安良岡教育長

私は、文教社の教科書の「考えてみよう」とか「やってみよう」「調べてみよう」でまとめていて、子どもたちが授業をやっていくには取り組みやすいのかと思ったが、細かいところまでいろいろ書いてあるので、東書と比べてみると内容的に少な目になっていて、子どもたちが自分たちで考えもよいのかという気がする。そうすると文教社ほど内容的に細かく丁寧を書く必要もなく、ある程度必要な基本的なことだけを記述して、あとは子どもたちがともに自分の生活を振り返りながら、お互いに話し合いをして、どんなところが大切なのかとか、どうしたらよいのかということ話し合える基本的な資料になればよいと考える。そうすると、全体的に東書の教科書がよいと私も考える。

#### 山田委員長

私は東書と学研で非常に悩んだ。どちらも怪我をしたり、不潔にしたり、あるいは体に悪い薬や煙草などを吸った場合の体がどうなるかという具体的な、どきっとするような写真がはっきりと出ていて、これは本当に怖いなと子どもに思わせる資料が充実していると思う。確かに小さい小学生の机にはサイズが大きいかと思うが、学研は書き込んで自分が考えをまとめるページも多い。そして大きいゆえに空白もあって見やすくできている。そして、学研特有の科学の写真などが充実していて、よいと思っている。ただ、東書も、先ほど来から皆さんがおっしゃっているよさがある。最終的に使いやすいということで東書にする。

以上から、保健は東書という意見であるが、いかがか。

(異議なし)

#### 山田委員長

では、保健は東京書籍株式会社を選定する。

以上で、全種目について協議を終了する。ただいまの協議結果をもとに、事務局に資料の作成をお願いし、議案第19号の審議に移る。

では、事務局資料作成のため、休憩とする。再開は4時15分とする。

(休憩)

#### 山田委員長

それでは、教育委員会8月臨時会を再開する。

## 2 議案第19号 平成27年度使用小学校教科用図書の採択について

#### 山田委員長

日程の2、議案第19号「平成27年度使用小学校教科用図書の採択について」を議題とする。議案の説明について、願います。

## 教育指導課長

平成27年度使用小学校教科用図書を、先ほど種目ごとに選定していただいた。ただいまお配りした別紙が、それを一覧表にまとめたものである。「平成27年度使用小学校教科用図書一覧（案）」9教科11種目のとおり採択するものとして、提案するものである。

（質問・意見）

なし。

（採決の結果、議案第19号は原案どおり可決された）

## 山田委員長

その他、委員の皆様から何かあるか。

## 下平委員

多くの方がお帰りになったようであるが、まずは長時間傍聴してくださった皆様方、暑い中、お忙しい中、本当にありがとうございました。

図書館などに教科書の見本本が置かれて、多くの市民の方がご覧になってアンケート用紙に記入をしてくださっている。それらも非常に私どもの参考になった。鎌倉市民の皆様の本当に教育に対する関心に心から感謝し、嬉しく思った。それと同時に私ども教育委員、本当に身の引き締まる思いで真剣に今回も選定に取り組んだ。さらに調査委員の皆様方、そして検討委員会の皆様方も、お忙しい中、時間をかけて丁寧に検討していただき、そのおかげでよい選定ができたのではないかと思う。改めて心より感謝を申し上げる。

私ども教育委員は、200冊を超える教科書の山から解放されるということで、本当に肩の荷がおりるという状況だが、大切なのは、これだけ時間と心を込めて選んだ教科書が現場で子どもたちのために活用されるということだと思う。どうかここにいらっしゃる皆様方がいろんな機会に先生方にその思いを引き続き伝えていただきたいと思っている。私ども教育委員は現場に足を運んで学校見学などさせていただき、そして先生方が本当に心を込めて児童に接してくださっているということで、先生方に厚い信頼を置いているが、今まで以上にぜひこのよい教科書を実際に現場で一層活用していただけるよう、心からお願いをしたい。

## 山田委員長

今、皆の思いを下平委員がまとめてくださったが、本当にそれぞれの委員が感慨深く今のときを迎えていることと思う。私が体験した海外の教育を踏まえて考えると、こんなにきめ細かに教科書をいただけるのは日本独自なのかもしれない。そんなに知っているわけではないが、海外では結構貸し出しというか、返さなければいけない学校もあつたりする。あるいは教科書自体を使わない教育、特に今ITが進んでいることもあつて、ところによっては本当にコンピュータ中心の授業が行われているところもある。そういう中で、こんなにきめ細かに全教科にわたって教科書が一人ひとりに配られることはとても恵まれた環境であることを子どもたちも感じてほしいと思うし、貰って当たり前、邪魔だなという姿が見受けられると

きもあるが、生活だの技術家庭だの、副教科にもすごく充実した教科書が与えられていることに関して、学校現場でも指導をしていただけたらと思う。

以上で本日の日程は全て終了した。

これで8月臨時会を閉会とする。